

令和 2年度

自己評価及び外部評価

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492800147	事業の開始年月日	平成23年1月1日
		指定年月日	平成29年1月1日
法人名	社会福祉法人 輝星会		
事業所名	グループホーム こ・みかん		
所在地	(〒 259-1315) 神奈川県秦野市柳町1-20-10		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年2月5日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営法人である社会福祉法人輝星会で介護老人福祉施設、ケアハウス、居宅介護支援事業所を運営し、連携する医療法人で介護老人保健施設、デイケア、地域包括支援センターを展開し、自立から要介護5まで継続して皆様に必要な介護を提供することを目標にしております。短期入所も受け付けており、ニーズに即した柔軟な対応も取り入れています。渋沢駅より2分という立地条件で、地域に根差したサービスを提供しております。御家族の面会に便利のよい場所で今迄の生活環境に限りなく近い生活を継続し、生きがいや楽しみを持って過ごせるよう職員間の連携を大切に取り組んでおります。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年3月1日	評価機関 評価決定日	令和3年6月1日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 この事業所は、小田急線本線渋沢駅から徒歩2分、国道246号線と県道708号線に面した場所にあり、近隣には商店街や公園がある。軽量鉄骨造り2階建の建物で、排泄の失敗に配慮しやすい、廊下と脱衣室の双方向から出入りできる造りのトイレがある。短期利用を受け付けている。同一法人の居宅介護支援事業所と、連携している医療法人が運営するデイサービスの事業所が隣接している。新型コロナ禍で中止しているが例年は、相互に協力し合って「みかん・こ祭り」や防災訓練を実施している。現在、面会中止を基本としているが、ベランダでのガラス越しの面会は実施している。また、家族と利用者が頻りに電話で会話できるようにしている。
【グループで連携した終末期の支援】 医師から事業所での生活が困難と判断がなされた際は、医師から家族へ説明の後、意向を確認し、利用者の状態に合わせたグループ内の施設を紹介するなど、支援することを説明している。「連携に努める」などの理念や「ひとつのグループとして連続したサービスを提供する」などのサービス方針のもと、同じグループの特別養護老人ホームや老人保健施設等と連携し支援している。
【地の利を生かした日常の外出支援】 現在は、新型コロナ禍で中止しているが例年であれば、慣れ親しんだ生活環境を彷彿させる駅前商店街や公園へ、利用者は職員同行のもと出かけている。農協で事業所の庭に植える夏野菜の苗を選ぶ、花屋で花束を購入する、米を毎週買いに行くなど、散歩や買物で見かける人々の往来などにも触れ、地域の人々と関わりながら過ごしている。また、家族とは、飲食店で外食を楽しむなど、駅近にある事業所の地の利を生かした外出の支援をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム こみかん
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者○が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者はグループホームに関わる法令、その他の意義を理解しており、これらを自らが所属するグループホームの運営上の方針や目標に具現化し、介護従事者に日常的に話し、実践につなげている。日々の朝礼で話している。	「1、プライドを大切に。2、連携に努める。3、みんなの幸せを目指す。」という事業所の理念と「みかんこけアグループのサービス方針」を掲げ事務所内に掲示し共有している。不適切な言葉遣いが見受けられた時などに、理念に立ち戻るよう朝礼などで職員に伝えている。利用者を敬う心を持ってサービス提供できる事業所を目指し職員は、理念の実践につとめている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板などで、地域の様子を把握しているが、コロナ禍の為回覧板のみの交流となっている。公道の掃除でありさつはしている。	曲松第2自治会に加入し回覧板を介して地域の情報を得ている。例年行っていた自治会主催の納涼祭り、防災訓練、敬老会、ふれあい茶話会は新型コロナ感染防止のため中止となっている。また、事業所が主催する「こ・みかんカフェ」の開催、ボランティア（紙芝居・踊り・ハンドベルなど）受け入れや「こ・みかん祭り」での中学生との交流も中止している。公道の清掃時には、近隣の方々と挨拶を交わしている。	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>法人との連携にてみかんこ祭りやこみかんカフェなどで、認知症の理解を広めている。さらに地域交流の一環として、緊急避難場所としての提供を検討。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>コロナ禍の為、高齢介護課の職員とも相談をし、紙面開催としている。なにかあればご意見を頂いている。</p>	<p>運営推進協議会のメンバーは、自治会会長、市の職員、地域包括支援センターの職員、法人及び事業所の職員で、近隣にある同一法人のグループホームと合同で開催している。新型コロナ感染防止で今年度の会議は、書面開催となっている。「運営推進協議会報告」を奇数月に行政に提出している。紙面で意見を募っているが、メンバーからの意見は挙がっていない。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>毎月メールでグループホームの状況を報告している。</p>	<p>市の高齢介護課へは、毎月、事業所の状況をメールで送信しているほか、電話相談や要介護認定申請代行で書類を持参した際に実情などを伝えている。今年度は新型コロナ禍で中止となっているが、市との連絡会（年2回）や保健福祉センターフェスティバルに参加した際にも顔の見える関係を保てるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルなどで、意識統一は図れているが、246沿いということもあり、防犯、安全上のため、玄関は施錠している。	建物が国道246号線と県道708号線に面しており、防犯及び安全確保のため日中、玄関及びユニットの扉を施錠している。施錠については、契約時に家族に説明している。帰宅願望のある利用者には、不穏になる時間などを見極めて「洗濯物をたたんでいただけませんか」等と声をかけ気分転換を促す支援をしている。3か月に1度「身体拘束適正化委員会」を開催し、2020年5月と2021年1月に身体拘束・虐待防止の研修で学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで学んでおり、日々の関わりのなかで、声掛けや対応には注意を払っている。また、職員同士もお互いの言動には気を配っている。アンケートをとり、振り返りもしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や地域権利福祉権利擁護事業についても研修へ参加し、知識を高めていきたい。		

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居、退居の時は十分な説明を行い、重要事項説明など書類での明確な説明も行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会などの機会にご意見やご要望をお聞きしている。が、コロナ禍の為、面会が制限された為、電話や手紙でご要望をお聞きしている。</p>	<p>月々の請求書を郵送する際に「ご様子」を同封して、利用者の状況などを家族に伝えている。新型コロナ禍以前は、日常の面会、ケアプラン表作成の前や説明の際などに要望・意見を把握し、反映に努めていた。現在は、面会を制限しており、電話や手紙で利用者の近況を伝え、その際に意見も募っている。利用者をお心配して来訪する家族には、ガラス越しの対面や電話で話ができるようにしている。オンライン面会を希望する家族の意向は、検討し実施には至らなかったが、頻回に本人と家族が電話で会話できるよう支援している。</p>	<p>家族全体との意見交換の場があるとより有効です。オンライン面会を希望する家族の意見等が反映されるよう引き続き検討を重ねられることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞くアンケートを法人全体で実施した。ホーム内では日常的に聞いており、上申もしている。	管理者は、職員が発言しやすい環境にすべく、壁をつくらぬ話し方に努め、全体会議や日々の申し送りをはじめ、日常的に職員の意見を聞いている。人事評価に関わる「目標管理シート」を職員にフィードバックする際に個人面談を実施している。必要時には管理者が個別に対応して相談などに応じている。職員の意見をふまえて利用者の席の変更などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価会議にて職員の適性或希望を把握し、配置を決めている。研修の参加などについても希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での教育システムを活用し、マニュアルを取り入れた指導や、目標にむけた取り組みを行う。研修についても希望をとり入れている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>ケアマネ協会の会議や研修、フェスティバルの打ち合わせに参加している。また、グループホーム間での相互研修も検討している。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に職員が御本人、御家族と面接を行い、希望をお聞きし、状態把握に努める。入居初期にも特に関わりを密に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階でグループホームの特性を理解していただけるよう、説明をさせていただく。困りごとや、入居後の不安をおききし、その方にあったサービスを提供できるよう、相談を重ねる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、グループホーム入居だけでなく、その方にあったサービスの説明、入退居を考慮した説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者も職員も同じ生活を共にするという意識をもち、対応する。ケアプラン作成時、サービス担当者会議を行い、本人の意向も取り入れている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族あってのご本人という意識をもち、ご家族との連携を密にしている。ご様子で、状態の報告もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、手紙や電話で交流している。	新型コロナ禍以前は、友人や退職した会社の同僚などが来訪し馴染みの関係を保っていた。また、家族の対応で、地域の読書会や墓参り等に出かけていたが、現在は中止となっている。古くからの友人と電話や手紙のやり取りをしている方がいる。入居前からの生活習慣を継続して、毎日仏壇の前に座り「おりん」を鳴らす方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の趣味、特性を踏まえ、コミュニケーションをしやすいようにレク用品や本を用意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談、方向性をご家族と共に検討している。別施設や病院に移られても面会などにいっている。また、道でお会いした時も様子をうかがっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	レクの記録も把握し、その方のできることで、興味のあることをチーム全体で把握する。ケアプランにも反映し、日々行うようにしている。	日々の関わりの中で「自宅で暮らしたい」「できることは自分でやらせてほしい」「花見に行きたい」等の利用者の希望を把握している。意向の把握が困難な場合は、二者択一で選択してもらったり経過記録や本人の表情を確認しながら汲み取り、その情報を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや入居後もご家族様やご本人との会話で情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で気づいたことを検討し、見直している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の関わりや変化に気づき、本人やご家族の要望や、意見を反映させたものを作るように心がけている。医師の指示も入れている。	「ケアプラン表」の課題に付した番号を記載した経過記録などをもとに、「課題抽出表」を作成しサービス担当者会議を開催して、計画書作成に繋げている。「ケアプラン表」は3ヵ月ごとの短期目標更新時に見直すことを基本とし、変化があればその都度計画を見直している。家族や医師等の意見や情報も反映し「ケアプラン表」を作成している。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>経過記録については会話の内容、反応、表情などを細かく記録するようにしている。ケアプランの実施の有無や評価も書くようにしている。記録により情報の共有もしている。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や状況について、ご家族の希望もお聞きし、話しあひもし、とりいれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内のSOS登録や民生委員の方たちとは運営推進協議会を通してご協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望をお聞きして、介護員が状態を把握しやすいみかんクリニックへ移行している。	かかりつけ医の選択は自由で新型コロナ禍中に協力医療機関へ移行した方もいる。現在は全員が、月2回協力医療機関の医師（内科・精神科）の往診を受けている。歯科や泌尿器科など専門医の受診は、家族が同行している。受診結果を聞き取り、申し送りや経過記録表に内容を記載し職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している法人保健施設の看護師へ医療処置の相談をしている。		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>御家族や医療機関と連絡を取り、状態把握を実施し、方向性を決めている。面会時に担当看護師から情報を得ている。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族にお話しをしている。重度化や終末期についてはかかりつけ医の助言もあり、ご家族の意向を確認し、共有している。	グループ内各施設、医療との連携について、契約時に家族などに説明し、状況が変化した時の対応方法について事業所の方針を共有している。利用者の変化に伴い、重度化や終末期の判断が医師からなされた際は、医師から家族等に説明してもらい、本人・家族等の意思を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の行う研修への参加や緊急時の対応に関しては定期的に見直しを行う。地域のAEDの研修にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練で職員の意識を高めている。又、地域の防災訓練に参加し、避難場所の確認をし、協力体制を築いている。	2020年6月と11月に夜間の火災を想定した総合訓練を実施し、2021年3月に地震を想定した訓練を予定している。ハザードマップで災害リスクが小さい場所である事を確認している。災害時の備蓄品としてカレー、白飯、水などの食品は「非常食リスト」で賞味期限などを管理し、薪、ガスボンベなどを準備している。家具や家電などへの転倒防止策を施している。	コロナ禍で自治会活動などが中止となり、避難訓練に参加してもらい呼びかけが進捗しませんでした。これらの取り組みを引き続き行い、地域の方の参加が得られることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者には尊敬の念をもち、言葉かけをおこなっており、不適切な場合は職員間でも注意を促している。個別指導も行っている。	毎年、法人が主催する接遇などの研修を受講していたが、今年度は中止している。トイレは、廊下と脱衣室の二方向から出入りできる、プライバシーに配慮された造りで、排泄の失敗の際には、人目に触れないように職員が浴室へ誘導するなどしている。呼称は、苗字に「さん」付けすることを基本にしている。利用者に向けて発している言葉や語調が不適切な時は、管理者が職員にすぐに注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体にならないように言葉かけや対応に気を付け自己決定を促している。危険の内容、できる限り、支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者の動きに合わせた業務表の作成、日課を作成し、支援している。個々の対応は難しいが、できる限り、そうよう努めている。			

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ホームにも月1回訪問の理髪があり、本人の希望の髪型にしている。又、季節に合った衣類を身につけて頂くために、衣類の入れ替えを行っている。入浴時の着替えの選択もご本人の意志を尊重している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>誕生日にはご本人のお好きなメニューを希望にとりいれ、調理、もりつけもしていただき、作る喜びを感じていただいている。食形態もご本人にあったものになっている。</p>	<p>朝食と夕食は、ご飯とみそ汁を職員が作り、配食業者の献立に従いチルド食品を温めて提供している。昼食は、利用者の嗜好やパン食の希望なども取り入れて献立し、職員が食材を調達して調理している。利用者の食形態に応じて「刻み食」や「トロミ食」を提供している。利用者は職員と一緒に盛り付けなどを行っている。誕生日には、利用者の好みの食事を提供するなどして食事を楽しめるようにしている。家族が同行して外食を楽しんでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事時、摂取量のチェックをしている。制限のある方や少ない方は別に水分チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に応じた方法で介助し、衛生を保っている。拒否があり、応じて頂けない時には職員を変えて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人に合わせた誘導の仕方、状況に合わせてトイレでできるよう援助している。	職員は「排泄チェック表」で排泄のリズムを把握し、トイレでの排泄を促している。リズムを把握した事で、パットなどの交換頻度が減少したりトイレで排便できるようになった事例がある。夜間は、リハビリパンツからおむつ使用に変える方など、一人ひとりの排泄パターンを活かして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食べ物、運動でコントロールできなくなっている方は、ドクターの指示にて下剤の使用にて排泄のコントロールを行っている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個別に時間、順番、更衣する衣服についても希望に添えるようにしている。拒否がある場合は順番や、日、職員を変えて対応している。</p>	<p>週2回の入浴が基本であるが、回数や時間は希望に浴えるようにしている。現在、毎日の入浴を希望する方はいない。希望があれば同性介助に応じられる。入浴を好まない方には、職員や日時、順番を変えて声を掛け支援している。季節を味わえるゆず湯や菖蒲湯を提供している。長湯や職員と会話をして入浴を楽しむ方がいる。暖房機を備えてヒートショック対策をしている。</p>	
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人が自由に休めるように利用者の思いをくみ取り、援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をもとに把握している。また、マニュアルにて手順を周知している。服薬漏れがないかダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割については、お手伝いをしていただいている。ご本人やご家族にお聞きし、対応している。嗜好品はご家族の協力により、個別対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、できないが施設の駐車場にでて歩いたり、花を見ている。	例年は、年間行事計画を作成して車で花見などに行く機会を作っていたが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため外出を中止している。日常的に行っていた職員との公園の散歩や商店街での買物も中止している。駐車場で外気浴をして、気分転換につなげている。外出ができない代わりに歩行訓練やレクリエーションを増やして充実を図っている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一緒に買い物に行き、好きなものを買えるように援助している。ご家族との外出時にもして頂いている。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族、ご親戚の方との手紙のやり取りの支援や希望時に電話を掛けるなどの援助もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花を飾ったり、室温調整にも配慮し、居心地の良い空間にできるよう支援している。季節ごとの壁飾りを利用者と制作している。	窓を開閉して換気し、カーテンで光の刺激に配慮している。冬季はリビングに加湿器を設置し、湿度計で管理して適切な湿度を保つようにしている。玄関先に季節の花を植え、壁飾りの雛人形などを飾り季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席も相性などを考慮して決めている。共用空間にはソファもあり、ゆったりと過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や本人が使いやすいものを持ってきていただいている。また、本人が生活しやすいように居室内の配置を考えている	事業所が備えた介護ベッド、エアコン、照明、クローゼットがある。利用者は、カーテン、整理ダンス、カレンダー、写真、テレビ、全集、仏壇など、思いおもいの物を持ち込んでいる。	

55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりやバリアフリーで自立した生活ができるようになっている。また、居室のまえに表札、トイレにはめじるしをつけ、わかりやすく工夫している。</p>		
----	--	---	---	--	--

事業所名	グループホーム こみかん
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者はグループホームに関わる法令、その他の意義を理解しており、これらを自らが所属するグループホームの運営上の方針や目標に具現化し、介護従事者に日常的に話し、実践につなげ継続していく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板などで、地域の様子は把握できている。行事への参加はコロナ禍の為、実施が困難。沈静化した頃合いをみて再開していく。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人との連携にてみかんこ祭りなどで、認知症の理解を広めている。さらに地域交流の一環として、緊急避難場所としての提供を検討。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、紙面開催を行っている。意見などがある場合は連絡をお願いしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、入居状況を報告している。なにかあれば電話で相談させてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルなどで、意識統一ははかれているが、246浴いということもあり、防犯、安全上のため、玄関は施錠している。職員間で声を掛け合い要所に気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修などで学んでおり、日々の関わりのなかで、声掛けや対応には注意を払っている。また、職員同士もお互いの言動には気を配っている。アンケートをとり、振り返りもしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や地域権利福祉権利擁護事業についても研修へ参加し、知識を高めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居の時は十分な説明を行い、重要事項説明など書類での明確な説明も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話にてご意見やご希望を伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝申し送りが開かれており、重要事項の報告が来ている。また、必要事項は1, 2階で回覧し情報を共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価会議にて職員の適性或希望を把握し、配置を決めている。研修の参加などについても希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での教育システムを活用し、マニュアルを取り入れた指導や、目標にむけた取り組みを行う。研修についても希望をとりいれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネ協会の会議や研修、フェスティバルの打ち合わせに参加している。また、グループホーム間での相互研修も検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に職員が御本人、御家族と面接を行い、希望をお聞きし、状態把握に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階でグループホームの特性を理解していただけるよう、説明をさせていただく。困りごとをお聞きし、入居後の不安をお聞きし、その方にあったサービスを提供できるよう、相談を重ねる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、グループホーム入居だけでなく、その方にあったサービスの説明、入退居を考慮した説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者も職員も同じ生活を共にするという意識をもち、対応する。研修に参加し、自立支援の意識を高めたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族あってのご本人という意識をもち、ご家族との連携を密にしている。ご様子で、状態の報告もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの関係で面会ができない状況にあるが、リモートで顔を見て会話できるよう環境整備を法人へお願いをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席を考慮し、関わりを持てるようにしており、トラブルにならないよう配慮している。レクを職員も交え、みんなで行なうように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談、方向性をご家族と共に検討している。別施設や病院に移られても面会などに行っている。今後は行事への参加を呼び掛けることも検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナ禍で実施できないこともあったが、出来る範囲で継続していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや入居後もご家族様やご本人との会話で情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に残し、ケアプランにいれ、日課にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の関わりや変化に気付き、本人やご家族の要望や、意見を反映させたものを作るように心がけている。医師の指示も入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録については会話の内容、反応、表情などを細かく記録するようにしている。ケアプランの実施の有無や評価も書くようにしている。記録により情報の共有もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や状況について、ご家族の希望もお聞きし、話しあいもし、とりいれている。 ご家族の状況によりニーズの変化もあり、とりいれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内のSOS登録や民生委員の方たちとは運営推進協議会を通してご協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望をお聞きして、かかりつけ医をきめている。コロナ禍の為、外部のかかりつけ医が難しくなってきた為、法人の往診医に健康管理を行ってもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している法人保健施設の看護師へ医療処置の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族や医療機関と連絡をとり、状態把握を実施し、方向性を決めていく。面会時に担当看護師から情報を得ている。		

	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の判断も大事だが介護現場の意見もとり入れ、グループ内で連携している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が実践力を身につけているわけではないので、法人の行う研修へ参加する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練で職員の意識を高めている。新しい職員を中心に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者には尊敬の念をもち、言葉かけをおこなっている。個々に合わせた声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のやりたいことやたべたいものをメニューを決める時にお聞きしたり、入浴時の着替えを選ぶことも決定してもらい、その思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者の個々に合わせた日課を作成し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームにも月1回訪問の理髪があり、本人の希望の髪型にしている。又、季節に合った衣類を身につけて頂くために、衣類の入れ替えを行っている。入浴時の着替えの選択もご本人の意志を尊重している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕は配食の為、昼に重点を置き、誕生日などは本人の希望を取り入れている。その他、行事食も皆で考え、季節にあったその時の行事にそったメニューを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事低下のある方には医師と相談し、補助飲料などで、栄養を摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導のもとに個人の状態に応じた方法で介助し、義歯はお預かりし、洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の誘導の声掛けをし、ズボンの上げ下げなどできることはやっています。立位不可、座位不安定な方は居室でパット交換している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食べ物、運動でコントロールできなくなっている方は、ドクターの指示にて下剤の使用にて排泄のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	全員が平等に入浴出来るよう、曜日の割り振りにはしているが、拒否があった場合には、順番や日、職員をかえて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じていつでも休息して頂いている。室温調整もこまめに行なっている。冬は乾燥防止にもつとめている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をもとに把握している。また、マニュアルにて手順を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割については、お手伝いをしていただいている。楽しみや娯楽がテレビという方もおり、対応している。レクもその日の天候にあわせ、工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は急な外部受診以外はコロナ禍の為、実施できず。落ち着いたら実施する。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、好きなものを買えるように援助している。ご家族との外出時にもして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族、ご親戚の方との手紙のやり取りの支援や希望時に電話を掛けるなどの援助もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時期を感じられるよう展示物を飾っている。派手すぎず地味すぎずを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席も相性などを考慮して決めている。共用空間にはソファもあり、ゆったりと過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、想いでのご家族様の写真などをおくことで、居心地の良い空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーで自立した生活ができるようになっている。また、居室のまえに表札、トイレにはめじるしをつけ、わかりやすく工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

社会福祉法人
グループホーム

作成日

令和3年6月 30日



【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族全体との意見交換の場がない。御家族様が希望されているオンライン面会ができていない。	オンライン面会を実現させる。	ご家族から希望を聞き取りオンライン面会のシステムを作る。	半年
2	35	避難訓練に地域の方の協力を得られていない。	コロナの状況にもよるが地域の方の参加をお願いする。	自治会や運営推進協議会の際に参加を呼びかけ、避難訓練に近隣の方も参加していただく。	1年
3					
4					
5					